

法政大学 大原社会問題研究所 共同研究プロジェクト 『現代イギリスの福祉改革と排除の問題』 第1回公開研究会

日時

2018年8月21日 14時30分 ~

場所

法政大学市ヶ谷キャンパス
大学院棟301教室

報告

第1部 「EU移民の福祉受給と排外主義」(14:30~)

吉田 公記(法政大学大学院 社会学研究科)

2015年総選挙におけるイギリス独立党(UKIP)の躍進や、翌2016年のEUレファレンダムにおける離脱派の勝利など、近年のイギリスでは排外主義の台頭が顕著に見られる。そこに至る過程では、EU移民の福祉受給をめぐる問題が、社会的・政治的な論争の的となった。本報告では、当時の新聞メディア、特に高級紙の言論に焦点をあて、福祉を基点とした排外主義の展開・様相について考察する。

第2部 「大衆メディアにおける福祉受給者バッシング」(16:30~)

鈴木 宗徳(法政大学 社会学部)

英国でワークフェア型の福祉改革が推進された背景には、福祉受給者の「福祉依存」や「ブロークン・ファミリー」をセンセーショナルに伝える、タブロイド紙やリアリティー番組の存在があった。オーウェン・ジョーンズの著書『チャブ』(原書2011年)によって、労働者階級への嘲笑をふくむバッシングはよく知られているが、その後の受給者バッシング報道を中心に、福祉改革への影響について報告する。

コメンテーター:二宮元(琉球大学)